白京子物

特
へ遠13
1894
2

見外自宇流星卷之二目録

龍之都
龍女成佛
雷公舍
盤舩
極樂座
来迎佛

へ遠18
1.894
2

教外別傳

見外白宇瑠璃卷之二

龍之都

佐ゝ目ゝるぼうき事とやうよりべうべうよ水道
ゝ地よりゝ免。誘の都ゝとゝ所ゝいゝゝ所りゝ誘ゝ
城と又海をハ。彼海の中に城郭とう金冊拾の福門。
瑠璃の尾馬脳乃扉蝋石ゝ一切の車渠のるし。
宮殿楼閣ハ金銀珠玉ちりばめたり。大きゝ
小牛とゝ札あり。是ハ水牛とゝ牛のゝ小牛ゝ歩み方
よ社牛丸ゝ丸ゝ丸ゝ

仏後ろのくるくるとわくうぶつしくおくくしゆ。誘
ゑふくも神輿法めりてゑ後乃祭りあふ出ゐくきしもを
不寳しゆ。菜のるふくしゆ女誘女ゑくゆ中に新菜
誘女とみてくるくるものくくいくくゆ大王さんゆよはゆゆな
きでくくさけでさゆはけつりれ花でゆりまに
でくしゆるきはくくかまれた誘女さんでくよ大
き傾くはは美悲くくく民はあるきこたもひ新毎
よ横みのでりは後ゆ拝げゆ。ゆくくたくゆ方あれで
清衣は後くせくき殺れは親こさゆはるさんと
おりくくものは法おのきさ角と後よどくとてあ年

志ますつ拝げゆ冠しゆ一日紀りにだすんだほうふりの
あるは根書れはけしり。今ではは代もはくさつりゆく。
姫紀るべざこだうりであうは代中ふは親くむとち
たこくそ紀くそのの元わんよきゆ一つもはるる元ハ
ござんくゆはけんゆくとはは義のくはいありがふい
るでいござんせゆくはは義戈誘女ゆは出ゐ元く
そのやうにいくきんなわの中ふ後くる元くはいの
はうくとうはゆ一ゆくるくがくくどのくちゆくな
ござよのくは後くはりのゆくれくる元ゆなんのはくくこ
てくゆやはくくくわんよくはるやろゆれゆんのはゆ引ゆか

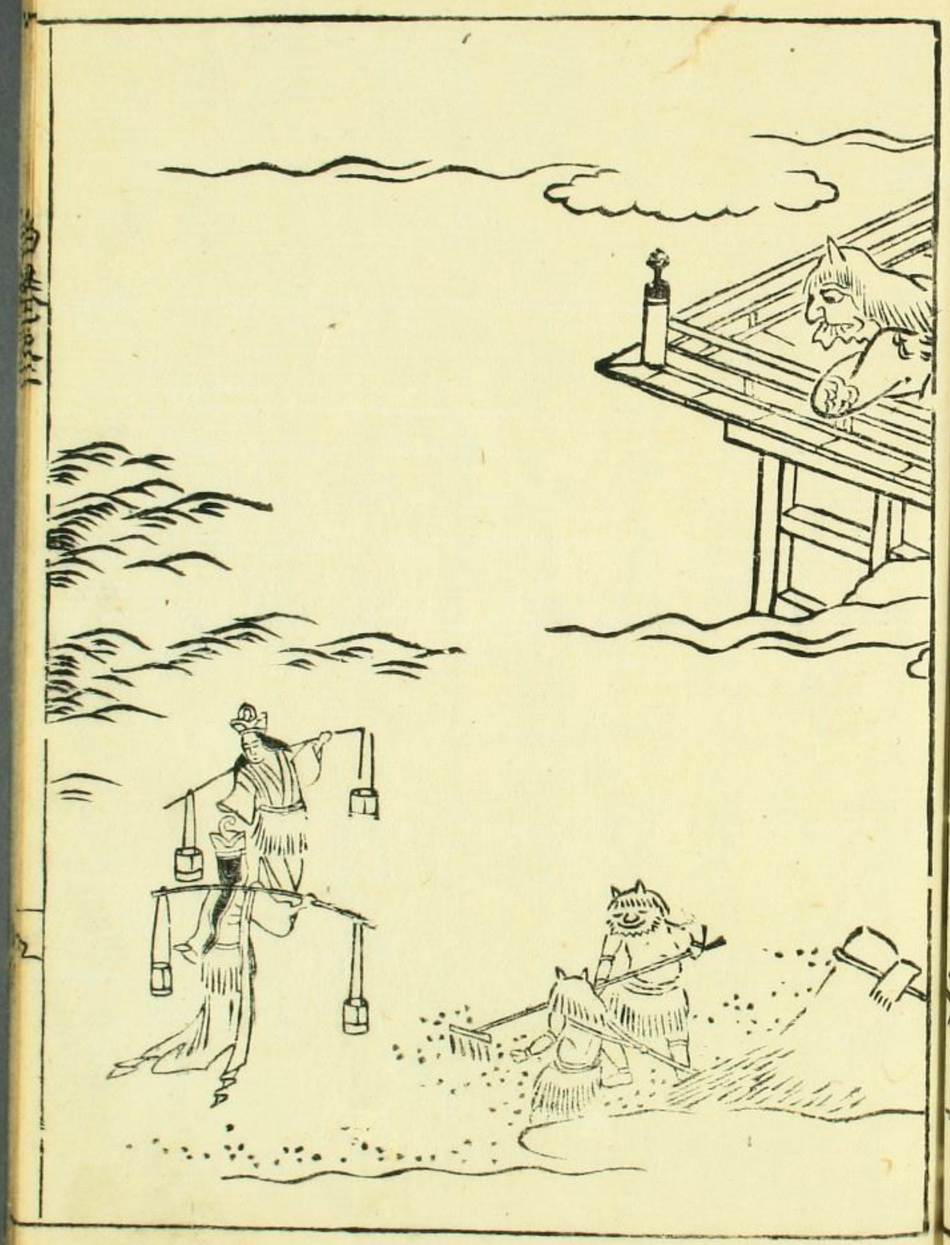
まゝとのゝ中へ入れ〳〵あのうめがこゝ
ろよい男ぢやるゝから早くぶれが〳〵お内儀なとゝの。
を内室おがしまい〳〵ろくなる男風俗ぢやぞや。
ひのつゝ目はなてぢる不中〳〵屋根やのしたこゝ
とはえとめあまいはおつゝろを枝れるよ仙さんし
さゝものであろうよの達はおつゝろよ仙さ〳〵果報うまい
けるしさうはなひつゝけ為の松も女とゝ仙ろ酒

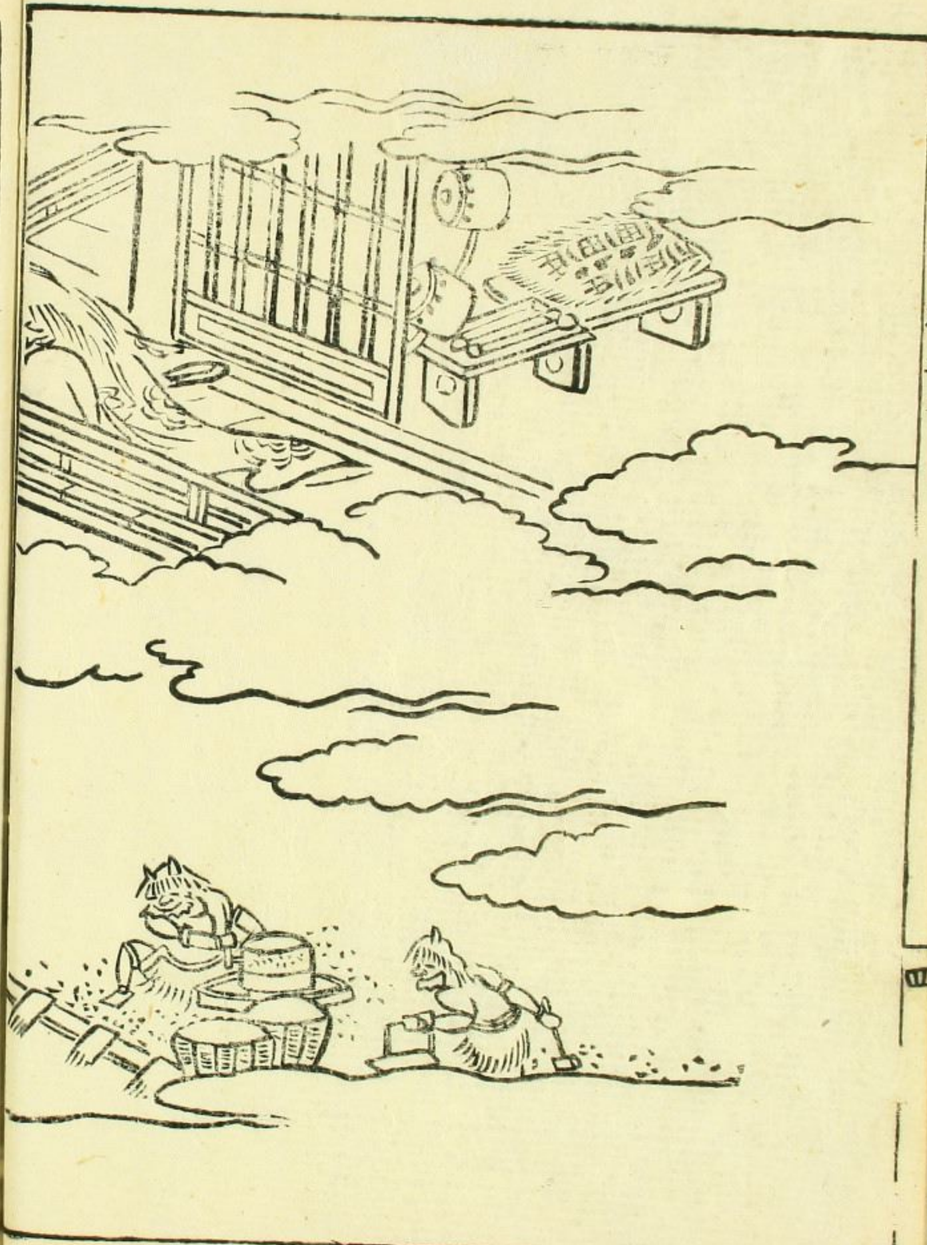
龍女色情

大坂不八殿のおろちの為い嫁の若女小女抱きれ
色廊おとちがゝ〳〵歩ま新。見し侍辛くる

八犬為もどのとみのゝいさびと男年ハ〳〵紀。男年ハ〳〵と
ゝ小木偉の御布伝世ゝ少あゝふゝけよ
えゝゆゝ小書法よお男方とゝのうゝ義深きゝ伝ゝ若
女四為傷ゝ〳〵ゝ母さ自伝をお河ゝめゝ〳〵ゝな
ど紀花ど次ゝされべとよあの浪乃ゝとみゝゝえ
水ゝてゝ乱と化ゝ蔵ていゝゝゝめゝゝゝみを
ど文龍おゝゝ花ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のこゝ水ゝ業ゝ文ゝゝゝゝゝ義ゝ風ゝゝゝゝゝゝゝゝ
浦海左帝ゝゝゝゝ舞ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
のゝゝゝゝ女支ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

浦島どの、古くいひでゝ、翁言ふもおそれなき事なれども、
たゞ花大さ、ゆゑ、遅めしてのけるを、
どこの、ゝ、いとうたる男くるひ、此中はまで、竹生島
のるすづきの、ゝ、ゝ、ゝ





大敵と勢相よせ候しとて弘治十三年いかの事なりけ
天乃川原にて雲霧俄に出し候しかば
牽牛星織女を流して無面ゆゑ
御書もなしふ
御くれ候ゆゑ
ふ
ふんぎんよ。火乃西にしかりをとりの
事外久しく退散れ
聖こやるり如
面の秘ゆうほうきは
不ゆとれ機嫌とん
ちくるる恋へ稲妻

あらやさぐしやうとまづまうすなり

盤船

天道のことわりてうかどの大事なるとまうさんみなしばくのうへ仕立おもてを男人星にもふ渡るべ
仕ぐしみるふ男人星宇興くまんと楽東六ぶ男うり
うれとを男おんと仕立ちまうよ香炉を長絵
香代をたうせ。さてうぐひやしいふぐしに石臼をくる
仕事をうひ男天性をづくもたぐのるるのかぐ。
ひよいく男男うれどこを中男よ石臼をくれど
ころりといちけ。又とべのあてとつと出角。筆九右衛

あらぐとこぐやくしろくむしまやうたを花ほどれ始てて
おくくみしぶ清者くふかしらを男ごけうこ
びぐくれおりまるやぐぶ。ひくしむわりう西中こん
仕よまのびど。物天女ハ琴にくてを竹たてうかくく
立ちれひ女中い天性ちうぐひよ始てくまる合ふ。
たくうりくれて甚雅楽人男小鼓をれたけうる東ふ
物くやかうのぐぐみるうちに目鼻耳ちり血流を
出くくうくむ物まれ線香ちう切れハあくれ
立法者て水仏のまし物む。正氣ま廣りそりよぐぐ
ぐいぬぐくとけまちよせうまぐ。大人の物表ぐこり

上られば。ゆきをふよりくおん人ども一生涯年うゑをとりやそとうさ雲ゆ星れてゆふさりうそ天の盤船ふのそこ水のそこ天に流しうのとごやえし

極楽座

初極楽とみるこせ。却ひしうるも結構のまたい。たゞ玄殿楼閣扁額もかく。仏祖とけだあどこと絵うたん殿。で見れとでくたあい堂塔。そうハまこれ雲ひしうたあびさ五色のくのうり五色れ仏連うくくうて却しまた日本でいくでかまし却りき寺あるこの仏陀如来のまた師新堂とれはは

初は大師釈加如来熊死として西また天竺ゆきたより中く迷ぐうし。仏二そ弟くうで色ちうの仏菩薩名僧云仏法者人こ金色にくれりし四色ぐうれ。ぐれやうん去ゆまた天竺大師霊しうしゆまた色ん若尊大師ゆ毎れ月死仏ゆてゆまんうて彩色ぶたよ。あうぎ云尊大師のまゆ金色にて原ま赤しいうとむし。れ来今ゆ生仏ゆたおうしゆゆおの来金色れなくけ衆。彫三百年ゆ来の元なり。だんくと猪くうと上へひけと歴。病のひろ居のやうにゆ月と痛とくゆ美よかうはうよく。と白ごうがおあく生仏よりうせうゆとうぶ。ゆ

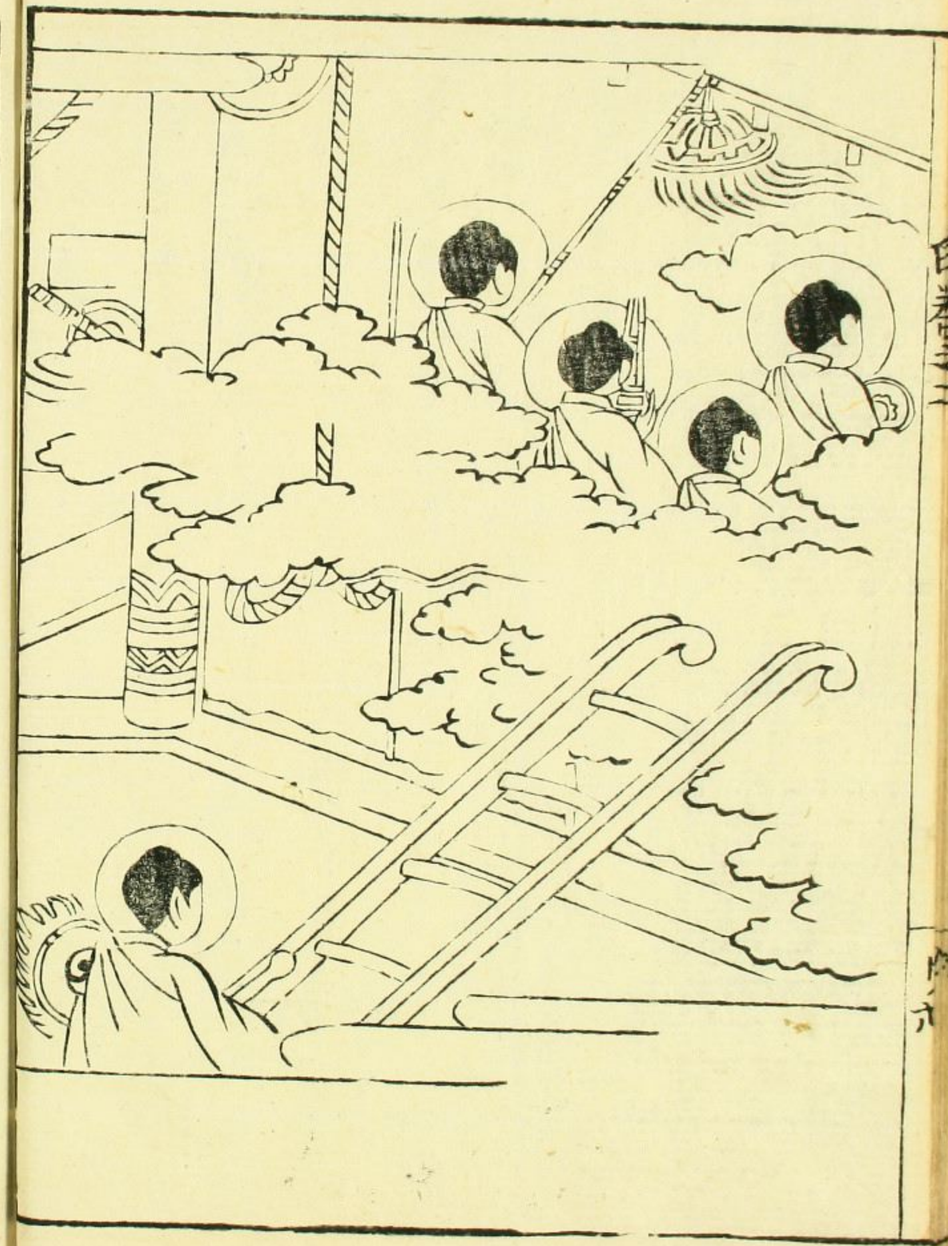
仏ありとは先ず彩ぎりけどのハ青しそれ上ゆ白し。
其上ゆ張ぐくの仏あるひは見えより黄金ふ
ゆりまれりぎれば今行極楽のえんぶだいふ世
生人面目のごくに成るむりい三途川よ拾て紙と成
ぐきの紙ばかり。六道の辻ゆ弁とたくられぬ
きぐ来るえのおく。佛菩薩も法うれしく給へども地
獄へ行者多く。極楽見ぐふ事ハ地獄へさかんよ多ぬ。
先ん第一地獄は火車有ていそかくしゆ付。罪人と三
十人も又十人もひとつ車に横のも鬼もたぐ一足ゆもつ
まりり。一日ゆりゆ百人やくゆ一人しても死ぬ。

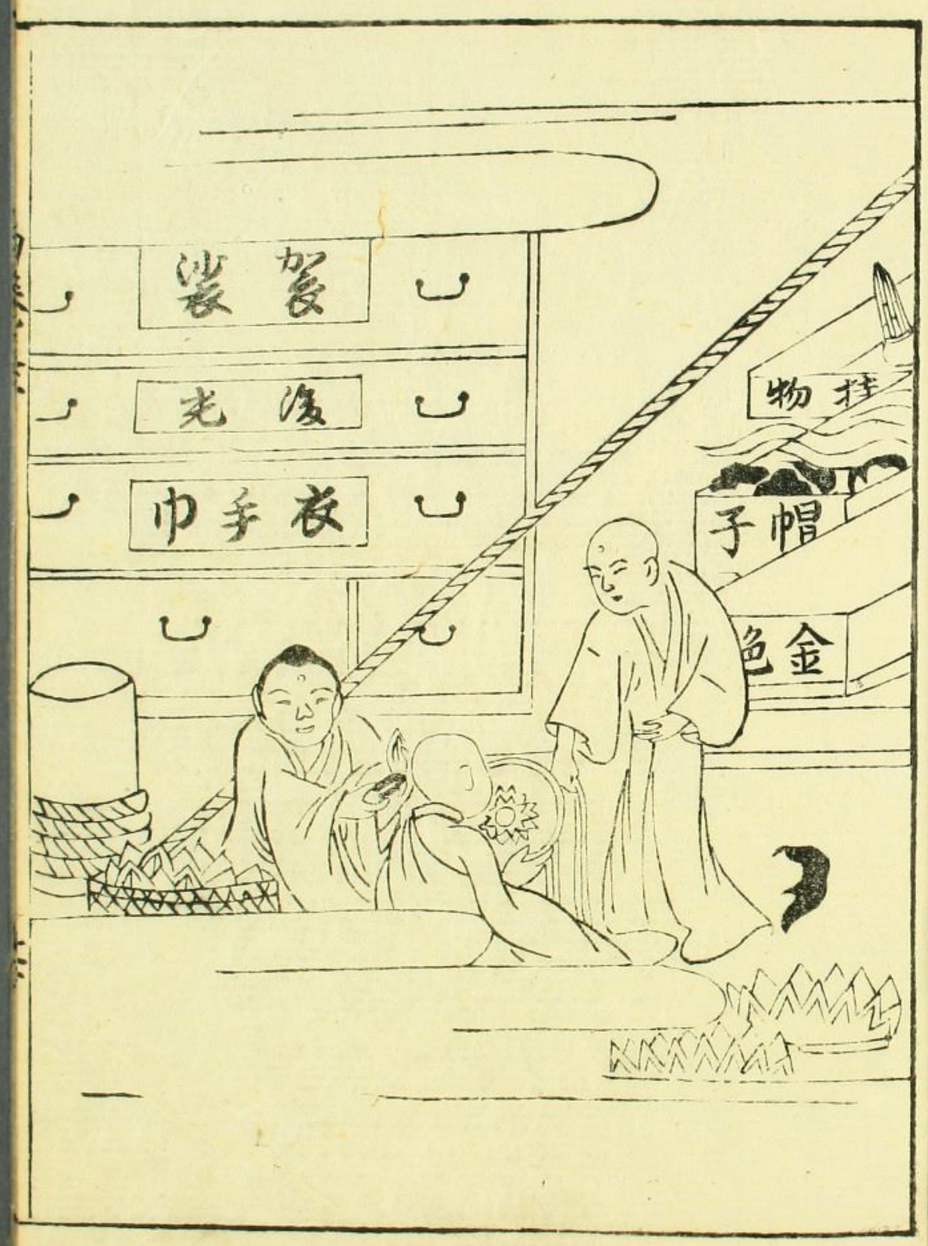
それゆひきゆ人極楽へ。東逆佛よ付並の菩薩ひき
つも。爰後ゆ成ぐくゆ中くゆ。
ら成ぐ一日ふ十人や八人ぐかりれ出ぐふくゆ中く
二番ゆ白ゆ多ゆ。ぐさんぶがみちくたる魚と不持
なれども張ぐ佛張性といく体義ふすしゆと故
都ゆく悪花よりゆ。ふ弘法佛四光佛
新嘗佛日蓮佛ゆて山師仏道相後ゆ極楽
座ゆて事ゆ孔ゆ。ゆ阿弥陀ゆ。ゆ法
仏法菩薩も今ゆハ中の極楽ゆやゆ成
ゆく日ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。ゆ。

かゝれ。極楽の器に食事する様を圖る。
はたらき地中に走りて食を奪ふ様を
来迎佛

極楽とは、弘法佛。圓光佛。親鸞佛。日蓮佛。此
四ぶつは、けゝ、えふく来迎佛と仕たてゝ、来迎仏の正
佛は、今の世の佛成弥陀と仕たてゝ、其中ぶつけ下
ぶつけまを二十五ぶつと仕たてゝ、来迎佛、幾信仏
といふぶつ、ぶつ、ひとりにぶつけまをめてある
亡者に、ぶつ、法方見ふぶつとゝて、ゆへ九尾狐
獄卒ぶつ、亡者、利を身ぶつ、ぶつ、迎ぶつ来とも。

ぶつ、ぶつけまを、二十五ぶつ、仕たてゝ、ぶつ、ぶつ、
迎佛、ぶつ、生仏、ぶつ、ぶつ、二十五ぶつ、ぶつ、中佛、下仏
新佛、を更、ぶつ、ぶつ、ぶつ、ぶつ、ぶつ、ぶつ、ぶつ、ぶつ、
ぶつ、ぶつ




袈裟
光後
巾手衣
物持
帽子
金色

往生しゝあ遠出佛とゝやうゝハ来迎仏の中へ行つゝふ
ゆゝ行つゝされど神事祭よりんゝの遠つゝ和行くあつゝ
はゝ神仏の門才流ゝとあるゝ人ハ捷名打の伝ゝ安ゝ語ゝ紀
八ゝ為ゝいゝゝ

教示別傳

徳あゝゝハ失あり極楽ゝゝゝ

四季のうつりかはるに木ゝ草ゝ華をさかせ実をむすぶ
うつくしきいとまなく浄土の荘厳とのたまふ二尊
ならべ列の浄土いとなつく美なるうつくしきかの
方の中に菩薩のかりに朝香の沼のうつくしと思ひ
しるべ今ゝ浄土のうつくしきかぐはしきかぐはしき
ゆゑんがとつくもしたしもしるひのあるうつくしき
其味をつくすかりにうるをさて加護釈伽のおとゝ教
ふくゝ仏種より起うつくしきうつくしきかぐはしき
かりにうるの外なく変化しうつくしきかぐはしき
儀式文節とかうるかるる教メしてうつくしを羊芋

蘇相なる死ぐくさまてさあとなきい首ふくつく
もすつかんの弓ふもあはびつきぬ皆こぐそつくつの光
とかりあ死ぐくれくらとはうつ所事わく併寄うふ夜
のくなりとて。恵仏乃報母教海とむもとび潮極系
集ゝ詩ゝ恵比。光明とつふさるゝ

見外白ゝ播播恵ゝ三